（五日夕刊）

休刊　大祭日　第一・第三日曜

定價　一ヶ月　一部二錢　郵税　六十錢　十五錢

廣告料　登行六十個指定廿錢

發行兼印刷人　鹽沼四郎

福島縣平町田町十六番地

發行所　磐城新聞社

電話五六八番

新らしき形式へ！

永崎　貢

1

今日われ〳〵の文學がどこへ行かうとしてゐるか――この問題の一端に極くサッと觸れるのがこの小論の目的なのである。然し絶えず出さんとしてゐることゝ久學に於ける原始主義をかこの問題が、幾多の勝れた階級藝術家によつてわれ〳〵の前に解決されつゝある事は明らかである。にもかんとしてゐるのも、報告文學がこの小論は再びそれ學が文學の形式の歴史的な發展として生れ出たものであらうか。否！この小論の書かれた直接の動機は藝術の新形式を示す萌芽である。殊に現在の如き轉換期に於ては、さもなくば彼は勞農自身にふさはしきものでありまた共に新らしき藝術の基礎であり藝術家の出發點である意味で重要である。だが然し、こゝに重要なことは、之のみが藝術の取上げ方にウッカリした所があつたことを示してゐるものである。

表はれは、彼が今日再び日本の『一九二七年』の誤りを持出さんとしてゐることゝして斥けらるべきものでなし事は一度讀んだ人には直ぐ知られるであらう。それ故にこそ作家同盟の報告は顯著な一歩前進!!と叫んでゐるではないか。

2

先づわれ〳〵が藝術を問題として取上げる以上、ツカリしてはならない。何故か、云ふまでもなく彼は一應ハッキリと藝術理論と藝術運動理論とを區別してゐる一部によつてこの生きかゝらねばならないからである。殊に現在の如き轉換期に於ては、さもなくば彼は勞農自身にふさはしきものでありまた共に新らしき藝術の基礎であり藝術家の出發點である意味で重要である。だが然し、こゝに重要なことは、之のみが藝術の取上げ方にウッカリした所があつたことを示してゐるものである。

3

『藝術の大衆化』が問題となり、藝術家達が勞農自身にふさはしい藝術形式を模索して、講談社風の誤りを犯してその社會的な根據が顧みられぬ樣になつた時、藝術運動理論とを區別してゐる一部によつてこの生きかゝらねばならないからである。殊に現在の如き轉換期に於ては、さもなくば彼は勞農自身にふさはしきものであると共に新らしき藝術の基礎であり藝術家の出發點である意味で重要である。だが然し、こゝに重要なことは、之のみが藝術の取上げ方にウッカリした所があつたことを示してゐるものである。

4

われ〳〵は決して文化の問題に於て藤村君の云ふ如き（AB）非觀主義に同意しがたい。却つてより高い文化を築き上げることを論ずるものである。それだからこそ益々われわれは藝術運動の目的の意義を認めて、彼の『一九二七年』的な『武器の文學』に對して多くの不滿を感じざるを得ない。われ〳〵は藝術の役目を『藝術のもつ特殊性を通じて』自パーセントに果すのであつて、單にXの掲げるスローガンを百まんだら稱へるのではない。彼の所謂『武器』の文學と前述の『報告文學』とを直ぐ（AB）から申譯ない。けれどもこの小論の云はんとしてゐる所はつてからつしやるやうでございますが……」幸兵衛は、いとはしそうに云つてゐる。

5

小論がその目的を充分に追ひ得なかつた事は何とも申譯ない。けれどもこの小論の云はんとしてゐる所は推定されることゝ思ふ。まもなくこゝに内容にふさはしい新しき形式が生み出されねばならない。

6

われ〳〵は決して『武器』を拒否するのではない。機械的な『一九二七年』のかの文藝戰線の分裂限りなく返すことに逃げたかつたが致し方がない。いつれ遠く機會が來るであらう（三〇・六・二夜）

君は朝日の小林を喜二の言を引用してゐられるが『蟹工船』にしろ『ゴースタップ』にしろ『太陽のない街』にしろ、決して一説明化』歪曲化』卑俗化』と斥けらるべきものでなし事は一度讀んだ人には直ぐ知られるであらう。それ故にこそ作家同盟の報告は顯著な一歩前進!!と叫んでゐるではないか。

われ〳〵は決して『武器』を拒否するのでは問題をいくつも持つてゐる。一二の問題にこの問題の一端に極くサッと觸れるのがこの小論の目的なのである。然し絶えず出さんとしてゐることゝ久學に於ける原始主義をかこの問題が、幾多の勝れた階級藝術家によつてわれ〳〵の前に解決されつゝある事は明らかである。にもかんとしてゐるのも、報告文學がこの小論は再びそれ學が文學の形式の歴史的な發展として生れ出たものであらうか。否！この小論の書かれた直接の動機は藝術の新形式を示す萌芽である。殊に現在の如き轉換期に於ては、さもなくば彼は勞農自身にふさはしきものであると共に新らしき藝術の基礎であり藝術家の出發點である意味で重要である。だが然し、こゝに重要なことは、之のみが藝術の取上げ方にウッカリした所があつたことを示してゐるものである。

われ〳〵は決して『武器』を拒否するのでは問題をいくつも持つてゐる。一二の問題にこの問題の一端に極くサッと觸れるのがこの小論の目的なのである。然し絶えず出さんとしてゐることゝ久學に於ける原始主義をかこの問題が、幾多の勝れた階級藝術家によつてわれ〳〵の前に解決されつゝある事は明らかである。にもかんとしてゐるのも、報告文學がこの小論は再びそれ學が文學の形式の歴史的な發展として生れ出たものであらうか。否！この小論の書かれた直接の動機は藝術の新形式を示す萌芽である。殊に現在の如き轉換期に於ては、さもなくば彼は勞農自身にふさはしきものであると共に新らしき藝術の基礎であり藝術家の出發點である意味で重要である。だが然し、こゝに重要なことは、之のみが藝術の取上げ方にウッカリした所があつたことを示してゐるものである。

貞操保護

青木　華山

嘗て寒門子先生から外遊土産として巴里のクリュニー博物館に陳列されてゐる貞操保護器（貞操帶）の寫眞を貰つて秘藏してゐる。これは妾を多く持つた大名が戰守に出た留守中の不安を防禦する爲め、諸妾の腰部に施した錠前である

◇――◇

併しこれは吾東洋にも可なり古くからあつて、支那では『陰鎖』と稱したさうだ。日本の古い文獻にもこれに似寄のものが澤山ある。だが貞操帶や陰鎖の如く嚴しい金屬性のものでない。しかも男性に對する浮氣封じとから面白い。まづ古い所では瓢單を男躰の一部に嵌入したもので、下つてはその部分へ符合または繪畫を記して其の存滅に依つて貞操保護器（貞操帶）の寫眞を檢察したといふ珍話を持つてゐる。

◇――◇

淨土門の碩學無住和尚の『砂石集』卷六七章にこんな話柳が掲げてある

遠江國池田の邊に庄官有りけり彼妻稱めたる嫁妬心の者にて男を取詰めておからざまにも差出さず所の地頭代、鎌倉より上りて池田の宿にて遊けるに、見參の爲宿へ行かんとするを例の許さず。地頭代智音なりければ如何見參せざらん、許せと言ふに、さらば印を附けんとて○たる所にすり粉を塗りてけり。扨宿へ行きぬ。地頭みな仔細知りていみじく女房に許されてきや、にはしたり、遊女呼びてれて遊び玉へといふに、人になかつたから、この失態を見聞の者にて六かしく候演じたものである。これが然も符を附けられ候と云また眞實を舌味判別した妻ふて、しか〳〵と語りけ君の深慮遠謀も、嫁妬心の れば、冠者原に見せて本發露とはいひながら學ぶべの如く塗るべしとて、遊きであるまいか。

◇――◇

この筆者無住和尚も中々隅に置けないワケ知り坊さんである。一拘上人句あり青簾酒落てどつた坊樣よ。

是は鹽がなきとて、引伏せり縛りけり。心深き餘りに疎ましく覺えて、頓て打捨て鎌倉へ下りにけり……。

單なる摺粉（芋の根）と思ひき、それには鹽分が含れてあつたのを知るやうも遊び玉へといふに、人になかつたから、この失態を見聞の者にて六かしく候演じたものである。これが然も符を附けられ候と云また眞實を舌味判別した妻君の深慮遠謀も、嫁妬心の發露とはいひながら學ぶべきであるまいか。

◇――◇

この筆者無住和尚も中々隅に置けないワケ知り坊さんである。一拘上人句あり青簾酒落てどつた坊樣よ。

頭代智音なりければ如何見參せざらん、許せと言ふに、さらば印を附けんとて○たる所にすり粉を塗りてけり。扨宿へ行きぬ。地頭みな仔細知りていみじく女房に許されてきや、にはしたり、遊女呼びてれて遊び玉へといふに、人になかつたから、この失態を見聞の者にて六かしく候演じたものである。これが然も符を附けられ候と云また眞實を舌味判別した妻君の深慮遠謀も、嫁妬心の發露とはいひながら學ぶべきであるまいか。

◇――◇

この筆者無住和尚も中々隅に置けないワケ知り坊さんである。一拘上人句あり青簾酒落てどつた坊樣よ。

幕末奇傑　高山彦九郎

講談

（154）中西洋々作　市施長春畫

興學運動（二）

「へえ、大變たやつれなさ」

「うゝむ、一別以來ぢや」

「しばらくたあひ申さなんだなア」

「うゝむ、勿論ぢや」彦九郎は少しく怨氣をふくめた聲で云つた。

「たとへどのようにやつれて居られようと、拙者にとつては、大切の客人ぢや、叮嚀なお通し申せ」

「はい、畏りました」

幸兵衛は彦九郎の言葉ですから仕方なくひき下つてゆきましたが、彼としては旅にやつれた常陸介の姿があまりにみすぼらしいものに思はれたのでせう。彦九郎を訪ねてくるものは男性に對する浮氣封じとから面白い。まづ古い所では瓢單を男躰の一部に嵌入したもので、下つてはその部分へ符合または繪畫を記して其の存滅に依つて貞操保護器（貞操帶）の寫眞を檢察したといふ珍話を持つてゐる。

◇――◇

淨土門の碩學無住和尚の『砂石集』卷六七章にこんな話柳が掲げてある

遠江國池田の邊に庄官有りけり彼妻稱めたる嫁妬心の者にて男を取詰めておからざまにも差出さず所の地頭代、鎌倉より上りて池田の宿にて遊けるに、見參の爲宿へ行かんとするを例の許さず。地頭代智音なりければ如何見參せざらん、許せと言ふに、さらば印を附けんとて○たる所にすり粉を塗りてけり。扨宿へ行きぬ。地頭みな仔細知りていみじく女房に許されてきや、にはしたり、遊女呼びてれて遊び玉へといふに、人になかつたから、この失態を見聞の者にて六かしく候演じたものである。これが然も符を附けられ候と云また眞實を舌味判別した妻君の深慮遠謀も、嫁妬心の發露とはいひながら學ぶべきであるまいか。

◇――◇

この筆者無住和尚も中々隅に置けないワケ知り坊さんである。一拘上人句あり青簾酒落てどつた坊樣よ。

「こちらへお通し申せ拙者るよ」さういへばひこ九郎の顏にも今までのような無精髭は少しも生へては居りません。身につけた衣裳も一かどゝのつた雜掌のそれです。どやかうの挨拶が終つてから、常陸介は改まつて云ひました

「それはさうと、例の學校建築の件はどうなつて居るのでござるな」

「うむ、その事でござるかひこ九郎も心もち態度を改めて

「この事は、今は聲高う申し上げられぬが、かいつまんで申し上げればかうちや、高辻大納言殿には菅家のに血統もひかるゝ關係上菅家の學問を再興せられんと召しぢや、菅家の學問と申せばとりも直さず皇室御心のそれ、つまりは勤王正義忠の士を發成しようことが――目的でござる」

「ふうむ」常陸介は思はず身をのりだして聞き入りました

「しかもこの事は既に内奏を經へられた氣、この上は九條殿白殿のお耳にいれてその御承諾を得ればも早事濟みといふまでに相成つて居るのでござる」

「なる程　常陸介は聞き終つて大きくうなづきました

「いや、ようく相分り申した。それでは新年早々そのことに着手せらるゝといふ譯でござるな」

「いや、ところがそこに今一つ苦しい事實があるのでござるよ」ひこ九郎はかうたように云ひます。

「いや、これも、畏き堂上に伺候する爲の用意でござる」

「へえ、大變たやつれなさ」

「うゝむ、一別以來ぢや」

「しばらくたあひ申さなんだなア

けふ締切り迄に申込み僅か七個

相場もガダ落ちとなつた 平郵便局の電話

平郵便局に於ける本年度特別電話の申込は去月二十六日より今五日まで十日間同局に於いて受付けたが意ろくなかれ締切最終日の今五日午後三時まで僅か七個の申込があつた許りである、昨年は申込四十七個のうち三十七個架設されたか今年の申込みは去年の八分の一に過ぎぬと云ふ除りに意外な記録である

之れは一般經濟界の不況と商業不振に因つたこと勿論で殊に架設費は年々安くない向後二三年も經てば至つて安い架設費で出來るからと行先きを見越し當分我慢しようと云ふ結果から來たものらしいが平町の電話は去る大正八年當時は一千二三百圓位のいが買相場が立ち昨年逸りでさい六七百圓を呼んたものが今年は四百三十圓で架設希望者が斯く稀薄になつて遂た結果は電話の賣買價格に甚だしい打撃を與へ殊に貸金の擔保價値にも逆算を來たし所謂電話相場のガダ落ちを示すに至つた、因に今年度平局の架設割當ては未だ決定しないが僅か七個であるので或は無抽籤で架設される樣になるかも知れない

郡下農村小學校の農桑休に異論

兒童の保健上からみて 當事者間で問題

石城郡下の各農村小學校は桑苗植付け繁忙期には農桑休暇を與へ兒童をして、その手傳ひをさせることにしてゐる。この事が兒童の發育上よい事か悪いことかについては種々議論があり、これを否とするものは旺盛な發育期にある兒童を、身心四肢の運動上均齊の得てない勞働に從事することはよくないことであるし、特にそのために都會地の兒童より夏期休暇が短縮されることも面白くないと言つてをり、これを肯定するものは勞働といつても別段他人に備はれて仕事をするものなく、手供の疲證はかくるところのない家庭で、出來るだけの手傳もするに過ぎないのだからこの植付といふ農家としては代表的に重大な仕事をする時期に、兒童をして氣分の上だけでも、これに協力させるといふことは悪いことではないと言つてゐる、以上農繁期休暇の可否の論は別とするも、兎に角兒童をして過激な勞働に從事させることの對しないことは可否兩論者も等しく認めてゐるところ塊に於て行なわれるがブルである從つてこの農繁期のドック、土佐の類で三十四兒童の負擔を出來るだけ輕減する豫定である

磐崎の村長と稱し 二重廻しを詐欺さる

四十圓物に半金を入れて 平署へ告訴さる

石城郡磐崎村大字下船尾字宮下農業谷惣太郎(四七)は昨年十二月廿日平町古鍛治町洋服仕立業中島初次郎方に至り俺れは磐崎村の村長だと自稱し代價四十圓の霜降九時頃逃走し平町方面へ立メルトンの二重廻しを正月入つた模樣があるので四日十日までの約束で法文し手付金二十圓を渡して立去つたが約束の正月十日主人中島の留守中店員を偽つて右二重廻しを持ち去つたまゝ幾度も請求したがそんな事は知らぬの一點張で仕拂はないので憤慨した中島は四日平署に詐欺の告訴を提起したが惣太郎は村長と遠い親戚になつてゐるが村長では無く平署で取調べ中

酌婦ドロン

主人から捜査願

宮城縣刈田郡温泉塲宮村飲食店村上ツメ方抱酌婦同縣石城郡磐崎村藤原里村生れ但野たつみ事高橋キヨ(二六)は前借百五十圓を節記飲食店に住み込んだが去る二十五日午後二時から南町加藤氏所有の馬塲に於て行なわれるがブルドック、土佐の類で三十四

石城の新鑛區

石城郡下左記鑛區は先に出願中の處今回試掘を許可された

石城郡磐崎村、渡邊村湯本町玉川村石炭九九四八〇〇坪磐城炭礦會社△双葉郡富岡町龍出村石炭一二三二〇〇坪田村郡大熊村今泉鑛廠△石城郡箕輪村石炭六三四三〇〇坪神奈川縣三浦郡逗子町横甲熊彦△石城郡渡邊村、泉村植田町石炭九二二六〇〇坪東京市麹町區磐城礦會社△石城郡神谷村平窪村飯野村平町石炭六五四二〇〇坪同社

鰹漁期が來て 七濱賑ふ

毎日の水揚げ

石城の七濱では月末以來鯛の豊漁で賑つてゐるが鰹の豊漁で賑つてゐるが去る二日には勿來町に隣接メジ鮪七千尾の大漁あり茨城縣大津町の大敷網しか等の者を流誕せしめずには置かぬ耳寄りな話、鐵道の上半期賞與及び定期昇給は來る十五日が日曜日のため一日繰上げて十四日に給與されるか之れまた此の不景氣なるにも拘らず例年の通り最高十二割最低五割の自富定期昇給は全從事員に總化的に行はれる模樣で、賞與と昇給とが一しよにころ付け込んで來る鐵道從業員は不景氣の世相を外にしてほ〳〵ものである。

平驛のボーナス 最高が十二割

定期昇給と一處に入る 驛員の惠美壽顏

石城郡地方の諸會社銀行等は此の不況に給料さへ滿足で經の豊漁で賑つてゐるが從員も諦らめてゐるが之れ等の者を流誕せしめずには置かぬ耳寄りな話、鐵道の上半期賞與及び定期昇給は來る十五日が日曜日のため一日繰上げて十四日に給與されるか之れまた此の不景氣なるにも拘らず例年の通り最高十二割最低五割の自富定期昇給は全從事員に總化的に行はれる模樣で、賞與と昇給とが一しよにころ付け込んで來る鐵道從業員は不景氣の世相を外にしてほ〳〵ものである。

石城藥劑士會

十日創立總會

石城郡には二十餘名の藥劑士が居るが未だ藥劑士會が組織されてゐなかつたので今回平町山野邊東次郎、宇佐美友二郎の兩氏發起となり十日午前十一時より平町南町丸昌ホテルに創立總會を開催する

石城産業振興

石城産業振興會では來る七日午前九時から農試石城分場に協議會を開き會員の研究調査に基き向後の活動方針その他に就き協議する

愛犬品評會

十五日平町で開く

平町の愛犬家より成る愛犬會は來る十五日午前八時から南町加藤氏所有の馬塲に於て行なわれるがブルドック、土佐の類で三十四

けさ小名濱大敷で マグロ一萬本

濱は俄かの活況

(小名濱電話) 小名濱大敷網は數日來鯛その他の漁獲で賑つてゐたが今五日午前九時の敷網にメジ鮪約一萬本の漁獲あり此の大漁に濱は俄かの活況を呈して來たが潮流、水色の關係等より見て引きつゞき大漁を豫像されてゐる

網に入つたのは異例とされてゐるが最近小名濱から久の濱間の沖合に鰹の先驅をなすメジ鮪が回游して來る毎日各濱數百本の漁獲あり富業者は大喜びでゐる

鮫川尻を 淡水港

町會へ建議案

石城郡植田町鮫川河口に淡水港を設置する案は去一日植田町會に動議として提案されたが磐城海岸には淡水港なく各漁船が不便を感じてゐる矢先きとて之れが實現の爲め同町有志等目下奔走中である

人氣がすぎて 入店謝絶

丸龜のマネキン

平町中野呉服店では四、五の兩日マネキン嬢三名を招

鮮人坑夫から 所長の說諭願ひ

手當を呉れぬとて 平署へ願出る

石城郡磐崎村藤原三井炭礦長屋に住朝鮮人金俊(四二)は昨四日平署へ同礦湯本鑛業所々長の說諭方を願ひ出た其の理由は金俊は大正十五年六月より同鑛業所の雜夫として働いていたが昭和四年十一月病氣になつて働いぬので五年五月解雇されたそこで金俊は解雇手當として鑛業法の規定する百八十一日分の手當を請求したに關わらず僅か二十六圓九十一錢だけしかくれないと言うれるとて

強制處分

平町の滯納者 十一日に競賣

平町では四年度前期特別戸數割國縣稅賦課等の滯納者に對し强制的處分に付してゐたが來る十一日午前十一時より之が二百五十名の差押へ物件の競賣處分を行ふ可くこの件數約八百件金額二千八百圓の見込みである

優勝旗を寄附

平町出町人塚運動具店では第三小學校の月次運動會へ優勝旗一旗を寄贈した

時言

鮮人坑夫から所長の說諭願ひ、事の是非は兎も角之れが三〇年式か

□ 同じ緊縮内閣の手で鐵道のボーナス十二割、思想の惡化も此處に胚胎す

□ 四倉角網まだゴダ〳〵小名濱大敷マグロ一萬本の大漁、世はさまゝ〳〵

□ マネキンの御利益が利き過ぎて入店謝絶、色即是空の意か

偽せ醫者は 罰金二百圓

平支部の判決

石城郡湯本町居住菓子製造人安達郡縣下村生、渡邊作四七は偽醫者とゲリピタゴールといふ强壯劑と二

又たも出過ぎた 四倉角網に悶着

磐城丸嚴重監視

石城郡四倉漁業組合の角網漁業は過般縣に於て調査したところ投網が免許範圍を超えてゐることを發見したので嚴重なる警告を發し、その後も水産試驗場長に命じ監視中であつたが四日同塲から依然として縣の警告をきかず免許範圍を五百間超ゆる二千四百三十間の沖合まで投網の設備をなしてゐるとの電報に接した

四人心中の跡を觀て

齊藤昌武

つい先の頃自分と同郷の平町に而も年增のみな同じ年働き盛りであるべき四人の青年男女がその背後に如何なる理由があつたにせよ若き人生の花たるべき四人が愛と平和にのゝまるべきはずの我が家庭をふりすてゝ、遠へ果てなき旅路へ出かけ、而もその中の二人は既にある海中の、もくづと消ゆ悲はくかを記せざるを得ないのである。

これらの生前に於ける動いた森羅はその中にその交樂には如何なる程度まで進展開されてゐる、私達は同郷の志として、而も今の社會に生き今の現實來るべき將來を知る意味でかこれらの死を單なる死ではなく、若き人生の花たるべき四人が、そしてその原因と結果が如何なる矛盾せる分子が、つたにせよ、彼等の死によつて暗示せられた幾多の教訓もあり思はばその幾少しこの二人の青年が死を いらぶにいたつたかについてその外形に表れたものよりみてこゝに少しの意味を述べん、死ことに自殺や、心中による不慮の死は今、幾多世相に表れつゝあるが、これらの死者の解について確に一般の遲、點がある、一寸私たちでも、女と云やつに語をかければ一もなく うん、けれと若き身が死を確 得るには、幾多の理由がつみかさなつて存在し、けれもとに幾多のうはさがたつた、自分は今、われらの背後に存する家庭、是非については幸福であつたらう、美しはさをたてられゝば事實個人は大人になるにつれて色々なことを知る樣になる知ることは一方に於て馬鹿になりいち悲くなることである。人の世には男女關係が死をいらぶにいたつたかの比較的中心問題であるのに關する研究や參考は割合に少い。

學校ではよいことのみ教へて悪い社會の半面を教へぬから、一寸學校そのまゝ社會へとび出してそのまゝ行へば幾多の失敗や落胆をかくる。失業も失戀もたちぶれるものは社會の罪ともいはるべきもの、その人の自確の足らざる點に大に有してゐる、吾等に死んだものによつて與へられた他等の社會への暗示もみんなして色々と批評し解說して現實味のある參考としたいこれが死を慰める唯一の方法でもらう

澤渡青園活動

石城郡澤渡村青年團では毎月一回一日道路愛護デーとして道路改修交通安全を計る事、なりこれが第一回を去る二日行つたが成績よく今後も期待されてゐる

平第三校旅行

平第三小學校六年生二百一名は一泊の豫定で六日午前五時四十分發で松島へ修學旅行に向う由

石城藥劑士會

十日創立總會

石城郡には二十餘名の藥劑士が居るが未だ藥劑士會が組織されてゐなかつたので今回平町山野邊東次郎、宇佐美友二郎の兩氏發起となり十日午前十一時より平町南町丸昌ホテルに創立總會を開催する

石城産業振興

石城産業振興會では來る七日午前九時から農試石城分場に協議會を開き會員の研究調査に基き向後の活動方針その他に就き協議する

良品廉賣に勝る 商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅鐵 ㊀ 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は㊀の生命なり

内臓外科 整形外科 醫學博士 藤本順
産婦人科 科院長 木村寅次郎
平町新川町 電話一六四番 木村病院

一圓十錢のフランス マルソー會社元詰
マルソー、ブランク マルソー、ルージ 生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥舗 たはなし 三番

入院隨意(自然の便あり)
X光線科 外科專門
平南町 上田外科醫院 電話一二九
增築落成 病室完備

平町紺屋町 吉田眼科病院
募集。看護婦(資格者)

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門 日本醫大醫學士院長 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科醫學士科長 高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院